

今週の大阪・関西万博 **週報** (12/17～12/23)
～ 開催まで あと **110** 日です! ～



©Expo 2025

1. 参加国の状況

- 12/17(火)、アイルランドパビリオンの建物工事が完了。古代ケルトの渦巻き模様である「トリスケル」をベースにしたパビリオン。3つ渦巻きはそれぞれ国家としてのアイルランド、日本との関係、クリエイティブな協働の精神を表現。



【出典】左 パビリオンイメージ: <https://www.expo2025.or.jp/official-participant/ireland/>

右 パビリオン外観(11月撮影): <https://www.instagram.com/ireland.ie/>



- 12/19(木)、ヨルダンパビリオンの公式マスコットが決定。ヨルダンパビリオンのテーマは「未来を紡ぐ(Weaving Possibilities)」であり、古代から未来まで続く 1 万年以上の時の流れを 10 分間で体験可能。



【出典】左 公式マスコット: <https://www.instagram.com/expo2025jordan/>

右 パビリオンイメージ: <https://www.expo2025jordan.jo/>



□ 12/20(金)、ラテンアメリカ4か国(ブラジル、チリ、ペルー、ウルグアイ)が、博覧会国際事務局(BIE)ホームページで、それぞれのパビリオン外観や展示内容を発表。

- ・ ブラジル： 自然保護、多様性、貧困根絶などに対する包括的・持続可能な取組を紹介
- ・ チリ： 持続可能性、民主主義、多様性の3つの分野に関する没入型体験を提供
- ・ ペルー： 自国の多様性と、それがどのように人類に貢献するかを紹介
- ・ ウルグアイ： 持続可能な開発モデルと多様な文化を紹介



(ブラジル館)



(チリ館)



(ペルー館)



(ウルグアイ館)

【出典】<https://www.bie-paris.org/site/en/latest/infocus/entry/latin-americas-vision-for-the-future-at-expo-2025-osaka-kansai>



2. 今週・先週・先々週以前の主な活動

- 12/23（月）、経済産業省は、日本政府館の「ファクトリーエリア」の展示概要を公表。同エリアでは、日本の伝統と最先端の技術が融合した「循環型ものづくり」の考え方や社会実装の姿をナビゲーターの「ドラえもん」が楽しく、わかりやすく紹介。



©Fujiko-Pro

【出典】 <https://2025-japan-pavilion.go.jp/news/241223/>

- 12/15（日）、日本郵便株式会社近畿支社は、近畿2府4県で2025（令和7）年用年賀状の引き受け開始イベントを開催。
大阪会場（KITTE 大阪）にはミャクミャクも参加。参加した幼稚園児たちは万博のテーマソングにあわせてダンスを披露



【写真提供】: 博覧会協会

【出典】: https://www.post.japanpost.jp/notification/pressrelease/2024/09_kinki/1210_01_01.pdf



□ 12/20（金）、博覧会協会は「フューチャーライフエクスペリエンス」における
期間展示&ステージの新たな参加者を公表。

<新規参加企業・団体>

- 大阪・関西万博中部のホンモノ体験出展実行委員会
⇒「中部＝ホンモノの体験ができるエリア」として万博の会場で発信し、VR(仮想現実)やAR(拡張現実)といった新たな技術を活用した新しい旅行体験を提案。
- コモングラウンド・リビングラボ運営委員会
⇒「コモングラウンドによる遠隔空間重畳」とのタイトルで企画内容を制作中。
- 株式会社 Liberaware
⇒実寸大モック／ジオラマ／VR 体験を通して、従来、人が行っていた危険で過酷な点検作業をドローンが代替する未来を見せる、未来の鉄道点検「Project SPARROW」ブースを展開。
- 株式会社レポインターナショナル
⇒循環型社会の実現に向けた最新の研究や製造フローを解説し、廃プラスチックや未利用木質といった廃棄資源から、新たな燃料を生み出す技術を紹介。



【出典】:<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20241220-01/>

□ 12/5（木）、在チリ日本国大使館は JNT0 と連携し、チリの旅行会社や関連メディア約 80 名を対象に「観光促進セミナー」を開催。大使館は大阪・関西万博に関するプレゼンテーションを実施し、JNT0 は文化・観光等の日本の魅力を発信。



左:伊藤大使挨拶 右:大阪・関西万博プレゼンテーションの様子

【写真提供】:在チリ日本国大使館

- 12/9（月）、韓国・ソウルにて開催された日韓観光ビジネスフォーラムで、菟川観光庁長官から大阪・関西万博を紹介。翌 12/10(火)、韓国・カンヌンにて開催された第 38 回日韓観光振興協議会では万博コンセプトムービーの放映やパンフレット配布など、万博を P R。また、両イベントで来賓等にミャクミャクぬいぐるみを贈呈。



菟川観光庁長官と
韓国のチャン・ミラン文化体育観光部第二次官
【出典】韓国観光公社



日韓観光振興協議会でのミャクミャク贈呈、記念撮影
（左から、チョ・デヨン江陵市議会副議長、中野観光庁国際観光部長、
キム・ジョンフン韓国文化体育観光部観光政策局長、キム・ホンギョ江陵市長、
イ・ハクジュ韓国観光公社国際本部長）
【出典】観光庁

- 先週と今週、内閣官房の EXPO スクールキャラバン事業の一環でテーマ事業プロデューサーが各地で出前授業を実施。

- ・12/17(火)、福島県田村市立都路小学校にて、河森 正治 テーマ事業プロデューサーが授業を実施。生徒たちは日々食べているものが、遡れば他の生物や大地、海等とつながっており、言い換えれば、いのちは合体と変形を繰り返していること、故にいのちに上下関係はないということを学んだ。



- ・12/23(月)、軽井沢町立軽井沢西部小学校にて、大崎 洋 シニアアドバイザーが授業を実施。自分だけの目線で物事を捉えるのではなく、他の人の立場に立って考え、お互いを認め合うことの大切さについて授業。



<今後の予定>

- 12/28(土)～29(日):『想像以上！を、体験だ！まわる！EXPO PLAYPARK』@イオンモール岡山 1階「未来スクエア」

<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20241220-06/>



<公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会のホームページはこちら>

<https://www.expo2025.or.jp/>



3. チケット販売の状況

- ◇ チケット販売枚数 : 744 万 3,561 枚 (2024 年 12 月 18 日現在)

4. 主要な指摘事項と事実関係

(1) 万博 TDM トライアルの検証結果について

指摘事項

- 12/23(月)、大阪府市と博覧会協会が万博 TDM(交通需要マネジメント)の試行結果を公表したが、会期中の TDM の取組はどのように進められる予定か。

【事実関係】

- 12/23(月)に、「2025 年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議(第 4 回)」において、本年 9/30(月)～10/4(金)に行われた万博 TDM トライアルの効果検証が行われ、イベント利用者等の要素を除けば、コスモスクエア及びトレードセンター前の各駅における降車人数に有意な低減が見られるなど、交通量低減に一定の効果が見られたことの報告がなされたところ。
- こうした検証を通じ、会期中にかけて、沿線主要集客施設等の要素を見込んだ上で、いかに混雑率低減を実現するかという観点での調整が必要となることが明らかになった。
- 今後は、大阪ヘルスケアパビリオンにおける催事スペースの提供などの TDM パートナー登録のためのインセンティブ付与等を通じ、企業、個人ともに TDM のための行動変容を促していくとともに、沿線主要集客施設等との調整を図ることにより、交通量低減に向けた対策を講じていくことが重要となる。
- TDM に関する取組の強化を通じ、交通の円滑化と都市活動の両立を推進していく。